

「神の招きと 私たちの招き」

マタイの福音書 6章9～13節

1



主の祈りから 学ぶ8

神の招きと
私たちの招き

2

「主の祈り」

天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

私たちを試みに会わせしないで、悪からお救いください。[国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。]

3

国と栄えと力はとこしえに、、、

- この部分は、「主の祈り」(聖書)には含まれていない。
- 新共同訳や口語訳にはない。(英語聖書 RSV, NIVにもない)
- 他の例 ヨハネの福音書8章。「古い写本のほとんど全部が7:53-8:11を欠いている。」(脚注、本文の下に小さな字で書かれている説明)
- 古代の教会の「主の祈り」に対する応答

4

神の招き

- 祈りには相手がいる。(関係ある祈り)
- 人に聞かせる。自分を満足させる。(関係ない祈り) マタイ:6:6
- 誰も見ていないところで神に祈るのが基本。「神しか見ていないところで」の態度が養われる。
- 御名、御国、御心を「あなたの名前、あなたの国、あなたの心」と祈ってみる。

5

私たちが祈る時に

- 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。ローマ8:26-27(8:14-16、31-34)

6

私たちの招き

- 日々の祈り 1テサロニケ5:17
- 絶えず祈りなさい。
- 神はこの祈りを通して、私たちに一緒に生きようと招いてくださっている。私たちはこの祈りを通して、私たちの生活を治めてくださるよう神を招く。
- 濟みより住み。赦しから許し。招きと招き
- どうぞからどうぞへの祈り

7

私たちの招き

- 命は神とのつながり、関係。ヨハネ17:3
- 絶えず祈りなさい。絶えず神のご臨在を覚えなさい。神と一緒にいなさい、生きなさい。
- 神は私たちと一緒に生きることを望んでおられる。私たちが「はい、父よ。私たちがあなたと一緒に生きたいです。」

8

私たちが形成する祈り

- 私たちを変える祈り。形成する祈り。
- 神に似るようになるための祈り。
- あがめる者、愛する者、へりくだる者、仕える者、従う者、信頼する者、分かち合う者、赦す者、正直な者、悪意のない者、神と一緒に戦う者になるための祈り。
- しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。ガラテヤ 5:22-23

9

私たちが形成する祈り

- 私たちクリスチャンが、この祈りを真剣にとらえて日々父と親しく交わるなら、私たちは、私たちのうちに住む神の御霊の力によって成長し、父に似た者に変えられて行きます。
- 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。 2コリント3:18

10

自分たちの応答

- マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしのためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」ルカ1:38
- 本当に、私は主のしもべです。どうぞ、この祈りの通りこの身にもなりますように。
- 私のいのち(人生)、お金、能力、持っているものすべてはあなたのものでありますから、どうぞあなたの栄光のためにお使い下さい。
- どうぞからどうぞへの祈り。

11

自分たちの応答

- 課題 自分の言葉で、応答の部分を考える。
- 次の礼拝から形を変えて、まず「主の祈り」、それから「黙とう」にする。その時に自分たちの応答、賛美をささげる。
- 暗唱聖句 ルカ1:38
- マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしのためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」

12